

青山学院大学  
ジェロントロジー研究所年報

第7巻

2024年度

# 目次

目次	2
卷頭言	3
講演会	4
平田 普三	5
井上 孝	11
塩澤 友規	13
日置 俊次	15
米山 聡	17
栗原 陽介	20
石井 慶子	23
竹下 啓	25
佐野 智子	27
長田 久雄	29
平井 誠	31
草野 邦明	32
井上 希	34
朝倉 匠子	36
大西 典子	38
及川 麻衣子	40
五十嵐 靖博	42
大野 淑子	43
永松 俊哉	45
SAM	46

## 巻頭言

日本社会は今、かつてない規模で進行する少子高齢化という大きな課題に直面しています。2025年には65歳以上の高齢者が総人口の約30%を占め、さらに団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、日本の社会保障の負担増と労働力の不足が深刻化する「2025年問題」が本格化します。こうした状況の中、日本の超高齢社会を持続可能なものにするには喫緊の課題であり、高齢者に関する社会課題を多角的に研究し、明るい未来を構築するための学際学問であるジェロントロジーはますます重要視されています。今のジェロントロジーでは、変化を恐れず、新たな可能性を見出し、未来を前向きに切り開く姿勢が求められています。少子高齢化がもたらす社会の課題を「問題」として対峙するのではなく、社会全体のあり方を見直し、新しい価値を生み出す「機会」と捉えることが重要で、そのためには、高齢者が社会の中で役割を持ち続けられる環境を整備するとともに、若年層との世代間交流を促進し、社会全体で協力し合える仕組みを構築することが求められます。青山学院大学ジェロントロジー研究所は2018年度に設立され、7年活動をしてきました。本年度も人口・経済・医療・情報技術・福祉・文学・美容など、あらゆる分野の専門家で連携し、学際研究を深化させるだけでなく、ジェロントロジーと向き合うための教育や啓発、広報にも努めてまいりました。ここに2024年度のジェロントロジー研究所の活動報告を公開いたします。本報告が、ジェロントロジーの意義をより多くの方と共有し、誰もが長寿を喜ばしく思う社会について考える契機となれば幸いです。日本の未来を希望に満ちたものにするために、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2025年3月

所長 平田 普三

# 講演会

## 第9回講演会

日時：2024年12月14日（土）13:30-15:00

場所：青山学院大学総合研究所ビル大会議室（青山キャンパス14号館12階）

講師：高橋 昌一郎（國學院大學文学部教授・情報文化研究所所長・Japan Skeptics副会長）

開催報告：<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/activities/activities-report241219/>

國學院大學文学部教授・高橋昌一郎先生をお招きし、「ロジカルコミュニケーションと認知バイアス」をテーマに講演を開催しました。高橋先生は哲学や論理学の専門家であり、多くの著書を通じて人間の理性や知性を啓発する活動をされています。会場には多くの一般参加者が集まり、たいへん活気のある講演となりました。冒頭で、参加者同士がペアを組み、対面のコミュニケーションが距離や目線で左右されることを体験しました。これにより、講義型から体験型へと転換する高橋先生独自のインタラクティブな講演スタイルが一気に開花し、参加者は講演に引き込まれました。高橋先生は「ロジカルコミュニケーション」が対話を豊かにすることを強調され、現代社会に蔓延する「相手を黙らせるコミュニケーション」の問題点を指摘。その上で、具体的に10の論法を紹介し、それぞれの背景や改善のためのアプローチについて詳しく解説されました。質疑応答では、日常生活やビジネスシーンにおいて、論理的かつ誠実なコミュニケーションを実践する方法について活発な議論が交わされました。参加者からは「時間があっという間に過ぎた」「論理的対話の重要性がよく理解できた」「日常のコミュニケーションで実践したい」など、多くの好意的な感想が寄せられました。今回の講演は、ジェロントロジー（加齢学）の視点からコミュニケーションの新たな価値を考える貴重な機会となりました。



高橋先生を囲んでの記念写真

## 平田 普三

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_-leader/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_-leader/)

### 研究成果の概要

ゼブラフィッシュという淡水魚をモデルとして、生物の老化がどのようなメカニズムで起こるか、そもそも老化することの意義は何なのかについて研究をしている。遺伝的に均一な近交系ゼブラフィッシュ M-AB を開発し、そのゲノムの詳細を発表することで、老化をはじめとするさまざまな生物学現象を再現性高く解析するツールと情報を公開した。またパーキンソン病や GPI 欠損症のモデルをゼブラフィッシュで作出して表現型を解析することで、それぞれのヒト疾患の病態発症のメカニズムや加齢にともなう変化を明らかにした。

### 学術論文

1. Hirata, H., Ishitani, T. and Okamoto, H. (2024) Swimming into future breakthroughs from Kyoto, Japan: Report of the 18th International Zebrafish Conference (IZFC2024). *Genes Cells* 30 (1): e13193.  
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/gtc.13193>
2. Sadamitsu, K., Yanagi, K., Hasegawa, Y., Murakami, Y., Low, S.E., Ooshima, D., Matsubara, Y., Okamoto, N., Kaname, T. and Hirata, H. (2024) A novel homozygous variant of the PIGK gene caused by paternal disomy in a patient with neurodevelopmental disorder, cerebellar atrophy, and seizures. *J. Hum. Genet.* 69: 553-563.  
<https://www.nature.com/articles/s10038-024-01264-3>
3. Sadamitsu, K., Velilla, F., Shinya, M., Kashima, M., Imai, Y., Kawasaki, T., Watai, K., Hosaka, M., Hirata, H. and Sakai, N. (2024) Establishment of a zebrafish inbred strain, M-AB, capable of regular breeding and genetic manipulation. *Sci. Rep.* 14(1): 7455.  
<https://www.nature.com/articles/s41598-024-57699-3>
4. Watai, K., Sadamitsu, K., Wada, S., Kashima, M. and Hirata, H. (2024) Zebrafish *trpm7* mutants show reduced motility in free movement. *Dev. Growth Differ.* 66 (6): 349-356.  
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/dgd.12937>
5. Kashima, M., Komura, R., Sato, Y., Hashimoto, C. and Hirata, H. (2024) A resource of single cell gene expression profiles in a planarian *Dugesia japonica*. *Dev. Growth Differ.* 66(1): 43-55.  
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/dgd.12893>
6. Mori, K., Aoki, Y., Mikashima, F., Maki, K., Tanaka, T., Hayashi, M., Sugimoto, W., Ono, M., Umekita, S., Niino, T., Fujiwara, M., Ebata, T., Hirata, H. and Kojima, H. (2024) Validation of a new protocol for a zebrafish MEFL (malformation or

- embryo-fetal lethality) test method that conforms to the ICH S5 (R3) guideline. *J. Tox. Sci.* 49(8): 337-348.  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jts/49/8/49\\_337/\\_html/-char/en](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jts/49/8/49_337/_html/-char/en)
7. Matsuzawa, R., Kawahara, D., Kashima, M., Hirata, H. and Ozaki, H. (2025) tomoseqr: a Bioconductor package for spatial reconstruction and visualization of 3D gene expression patterns based on RNA tomography. *PLoS One* 20 (1): e0311296.  
<https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0311296>
  8. Omata, K., Kashima, M., Ohkido-Yamamoto, M., Murai, N., Ishikawa, K., Hirata, H. and Kato, T. (2024) Canonical and non-canonical functions of erythropoietin and its receptor in mature nucleated erythrocytes of western clawed frog, *Xenopus tropicalis*. *Zoolog. Sci.* 41(4): 329-341.  
<https://bioone.org/journals/zoological-science/volume-41/issue-4/zs240004/Canonical-and-Non-Canonical-Functions-of-Erythropoietin-and-Its-Receptor/10.2108/zs240004.short>
  9. Takeuchi, I., Tanase-Nakao, K., Ogawa, A., Sugawara, T., Migita, O., Kashima, M., Yamazaki, T., Iguchi, A., Naiki, Y., Uchiyama, T., Tamaoki, J., Maeda, H., Shimizu, H., Kawai, T., Taniguchi, K., Hirata, H., Kobayashi, M., Matsumoto, K., Naruse, K., Hata, K., Akutsu, H., Kato, T., Narumi, S., Arai, K. and Ishiguro, A. (2024) Congenital anaemia associated with loss-of-function variants in DNA polymerase epsilon 1. *J. Med. Genet.* 61 (3): 239-243.  
<https://jmg.bmj.com/content/61/3/239>

#### 書籍出版

10. Shiozawa, T., Hirata, H., Inoue, T., Kanikowska, D. and Takada, H. (Editors). *Gerontology as an Interdisciplinary Science*. Springer. ISBN 978-9819727117. 2024年7月23日。  
<https://link.springer.com/book/10.1007/978-981-97-2712-4>

#### 分担執筆

11. Hirata, H., Tezuka, T. and Ujibe, K. (2024) Aging and Senescence Studies in Human and Zebrafish. *Gerontology as an Interdisciplinary Science* (Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine). Springer. ISBN 978-9819727117. 2024年7月23日。  
[https://link.springer.com/chapter/10.1007/978-981-97-2712-4\\_1](https://link.springer.com/chapter/10.1007/978-981-97-2712-4_1)
12. 平田普三。超高齢社会とジェロントロジー。美しく生きるための美容福祉：ジェロントロジー・美齢学。p2-7。中央法規出版 ISBN 9784824301895。2025年3月7日。  
<https://www.chuohoki.jp/item/A189.html>
13. 氏部浩太、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュRNA調整プロトコル。実験医学別冊『誰でも再現できるNGS「前」サンプル調整』p247-253。羊土社 ISBN 9784758122726。2024年7月2日。  
<https://www.yodosha.co.jp/yodobook/book/9784758122726/>

14. 貞光謙一郎、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュDNA調整プロトコル。実実験医学別冊『誰でも再現できるNGS「前」サンプル調整』p115-123。羊土社 ISBN 9784758122726。2024年7月2日。  
<https://www.yodosha.co.jp/yodobook/book/9784758122726/>

#### 招待講演

15. 平田普三。抑制性シナプスとてんかん。遺伝研研究会「ゼブラフィッシュ研究のこれまで、そしてこれから」。国立遺伝学研究所講堂（三島）。2025年2月28日。（研究会）  
<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/research/nig-meetings?id=1658>
16. 平田普三。実験動物としての魚類の適切な取り扱い。令和6年度厚生労働省主催実験動物管理者等研修会。厚生労働省内会議室（東京）。2025年2月21日。（研修会教育講演）
17. 平田普三。動物の心変わり。令和6年度山梨大学医学部ライフサイエンスコース冬季リトリート合宿。公益財団法人キープ協会清泉寮（山梨県北杜市）。2025年2月18日。（研究合宿基調講演）
18. 平田普三、田谷千歳、氏部浩太、貞光謙一郎、坂本蒼透、下平真之介、和田清二、鹿島誠。ゼブラフィッシュを用いた発生毒性試験の系統間差評価。第10回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会。酪農学園大学（江別）。2024年11月19日。（研究会）  
<https://sites.google.com/view/zmdd2024/プログラム>
19. Hirata, H. Plasticity of glycinergic synapses and escape behavior in zebrafish. CNU Conference of Advanced Technology 2024. Chungnam National University, Daejeon, Korea. 2024年11月14日。（国際学会）
20. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いた生殖発生毒性の課題と現状。第39回生殖・発生毒性学東京セミナー。国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）。2024年9月21日。（研究会）
21. 平田普三。魚の心変わり。第4回眠気学セミナー。弘前大学（弘前）。2024年8月5日。（セミナー）
22. 平田普三。小さな人の生物学。第6回東京若杉・駒草会総会新入会員歓迎会。青学会館アイビーホール（東京）。2024年6月22日。（同窓会基調講演）

#### 学会発表

23. 氏部浩太、本庶仁子、鹿島誠、和田清二、平田普三。xrcc5 変異体ゼブラフィッシュは早期に老化様表現型を示す。第47回日本分子生物学会年会。福岡国際会議場（福岡）。2024年11月29日（学会ポスター発表）
24. 渡井健太、貞光謙一郎、和田清二、鹿島誠、平田普三。trpm7 欠損ゼブラフィッシュは自発的な泳ぎの低下を示す。第97回日本生化学会大会。パシフィコ横浜（横浜）。2024年11月8日。（学会ポスター発表）
25. 和田清二、小林龍人、平澤華奈子、小柳光正、寺北明久、平田普三。ゼブラフィッシュを用いた錐体の光受容に基づく行動の解析。第27回視覚科学フォーラム2024

- 研究会。筑波大学つくばキャンパス (つくば)。2024 年 11 月 2 日。(学会口頭発表)
26. Wada, S., Sakata, S., Koyanagi, M., Terakita, A. and Hirata, H. Investigation of phototactic behaviors in brine shrimp nauplius larvae. 日本比較生理生化学学会第 46 回大会。名古屋大学野依学術交流会館 (名古屋)。2024 年 10 月 1 日。(学会ポスター発表)
  27. Watai, K., Sadamitsu, K., Kashima, M., Wada, S. and Hirata, H. Parkinsonism-related gene *trpm7*-deficient zebrafish show reduced motility in free movement. 日本比較生理生化学学会第 46 回大会。名古屋大学野依学術交流会館 (名古屋)。2024 年 9 月 30 日。(学会ポスター発表)
  28. Ujibe, K., Kashima, M., Shimada, R., Okamoto, M., Kobayashi, I., Wada, S., Matsuda, H., Sakamoto, A. and Hirata, H. Knockout of *wrn* gene mutant in zebrafish causes premature malnutrition. 日本比較生理生化学学会第 46 回大会。名古屋大学野依学術交流会館 (名古屋)。2024 年 9 月 30 日。(学会ポスター発表)
  29. 渡井健太、貞光謙一郎、和田清二、鹿島誠、平田普三。*trpm7* 変異ゼブラフィッシュはパーキンソン病様の運動障害を示す。第 9 回ユニーク会。北里大学相模原キャンパス (相模原)。2024 年 9 月 22 日。(学会ポスター発表)
  30. 井上雅貴、関根涼太、鹿島誠、和田清二、平田普三。ゼブラフィッシュにおけるトランスジーン発現抑制の発見。第 9 回ユニーク会。北里大学相模原キャンパス (相模原)。2024 年 9 月 22 日。(学会ポスター発表)
  31. 氏部浩太、鹿島誠、島田林太郎、岡本正成、小林功、和田清二、松田大樹、坂本章、平田普三。*wrn* 変異体ゼブラフィッシュは膵臓外分泌異常により早期に栄養失調となる。日本動物学会第 95 回長崎大会。長崎大学 (長崎)。2024 年 9 月 14 日。(学会口頭発表)
  32. 和田清二、小林龍人、平澤華奈子、小柳光正、寺北明久、平田普三。ゼブラフィッシュを用いた光依存的な行動解析。日本動物学会第 95 回長崎大会。長崎大学 (長崎)。2024 年 9 月 12 日。(学会口頭発表)
  33. Kashima, M., Nishimura, K., Kashima, H. Ikeshiro, H. Shimodaira, S., Ujibe, K. and Hirata, H. Time-course individual RNA-Seq revealed a transcriptomic landscape of sex determination and importance of female-specific genes in zebrafish. The 18th International Zebrafish Conference. 京都市勧業館みやこめっせ, 京都. 2024 年 8 月 19 日。(学会口頭発表)
  34. Sadamitsu, K., Velilla, F., Shinya, M., Kashima, M., Imai, Y., Kawasaki, T., Hirata, H. and Sakai, N., Establishment and genomic analysis of a novel zebrafish inbred strain M-AB. The 18th International Zebrafish Conference. 京都市勧業館みやこめっせ, 京都. 2024 年 8 月 19 日。(学会ポスター発表)
  35. Ujibe, K., Kashima, M., Shimada, R., Okamoto, M., Kobayashi, I., Wada, S., Matsuda, H., Sakamoto, A. and Hirata, H. Loss of *wrn* gene causes pancreatic exocrine cell defects and malnutrition in zebrafish. 京都市勧業館みやこめっせ, 京都. 2024 年 8 月 19 日。(学会ポスター発表)
  36. Wada, S., Kobayashi, R., Koyanagi, M., Terakita, A. and Hirata, H. Investigation of behaviors based on color vision using zebrafish larvae. The 18th International

- Zebrafish Conference. 京都市勧業館みやこめッセ, 京都. 2024年8月18日。(学会ポスター発表)
37. Watai, K., Sadamitsu, K., Wada, S., Kashima, M and Hirata, H. Zebrafish *trpm7* mutants show reduced motility in free movement. The 18th International Zebrafish Conference. 京都市勧業館みやこめッセ, 京都. 2024年8月18日。(学会ポスター発表)
  38. Kanai, E., Kaneko, R., Tanaka, Y., Wada, S., Kashima, M. and Hirata, H. Time-course analysis of slow and fast musculature in zebrafish. The 18th International Zebrafish Conference. 京都市勧業館みやこめッセ, 京都. 2024年8月18日。(学会ポスター発表)
  39. 鹿島誠、氏部浩太、平田普三。超低コストな時系列 RNA-Seq が拓く、データ駆動型の表現型解析。第 64 回日本先天異常学会学術集会。タワーホール船堀 (東京)。2024年7月26日。(学会口頭発表)
  40. 森華奈子、足利太可雄、江畑知憲、杉本航、小野美都穂、田中利男、平田普三、小島肇。医薬品メーカーにおけるゼブラフィッシュ催奇形性評価系の活用。第 64 回日本先天異常学会学術集会。タワーホール船堀 (東京)。2024年7月26日。(学会口頭発表)

#### 社会活動・委員活動

41. 平田普三。第31回小型魚類研究会組織委員長。2025年1月～
42. Hirata, H. International Zebrafish Society, Nominations Committee. 2023年1月～
43. Hirata, H. International Zebrafish Society, Awards Committee. 2023年1月～
44. 平田普三。ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会理事。2020年12月～
45. Hirata, H. Genes Editorial Board. 2020年9月～
46. Hirata, H. Frontiers in Molecular Neuroscience Associate Editor. 2020年7月～
47. Hirata, H. Scientific Reports Editorial Board. 2019年7月～
48. 平田普三。日本生化学会評議員。2018年9月～
49. 平田普三。文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト (ゼブラフィッシュ) 運営委員長。2017年4月～
50. Hirata, H. Journal of Biological Chemistry Editorial Board Member. 2016年7月～
51. 平田普三。公私立大学実験動物施設協議会代議員。2017年4月～
52. 平田普三。文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト (ゼブラフィッシュ) 運営委員。2010年9月～
53. 平田普三。国立遺伝学研究所研究会「ゼブラフィッシュ研究のこれまで、そしてこれから」世話人代表。2024年4月～2025年3月
54. Hirata, H. The 18th International Zebrafish Conference, Organizing Committee. 2022年8月～2024年12月
55. 平田普三。第47回日本神経科学大会プログラム委員。2023年7月～2024年8月

#### メディア出演

56. 平田普三。テレビ朝日系「キョコロヒー」の「青山学院大学教授に京子が習う」の回で

- 生物学の解説。2025年2月10日。  
<https://www.tv-asahi.co.jp/Kyoccorohee/>
57. 平田普三。大学ジャーナルオンライン。青山学院大学理工学部が女子高生向けイベントを実施した理由「STEM分野に興味を持つきっかけづくりが大切」。2024年8月9日。  
<https://univ-journal.jp/column/2024247299/>
58. 平田普三。朝日中高生新聞。STEM分野にもっと女子を。2024年7月28日。  
<https://www.asahi.com/asagakuplus/>

# 井上 孝

所属：青山学院大学経済学部・学部長（教授）

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_1/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_1/)

## 研究成果の概要

今年度の最大の研究成果は、オーストラリア版の小地域別将来人口推計マッピングシステム The Web Mapping System of Small Area Population Projections for Australia (SAPP for Australia) の構築・公開の目処がたったことである。このシステムは、オーストラリア統計局から提供を受けた小地域人口データ（2016、2021年）に基づき、2061年までの小地域別将来人口推計を行い、その結果をオープンデータとしてオンライン上に公開するものである。2024年3月末の公開を予定している。なお、この推計にあたっては、井上が開発した手法が用いられている。また、これまで構築してきた一連の小地域別将来人口推計システム (SAPP series) へのリンクを掲載したハブシステム The Series of “The Web Mapping Systems of Small Area Population Projections” (SAPP series) を公開した。このハブシステムは、日本、米国、米国ワシントン州、台湾、韓国に加えて、上記のオーストラリアに関する SAPP に関する簡単な解説とリンクが掲載されている。

## 学術論文・著書・分担執筆・ウェブサイト

1. Inoue, T. and Inoue, N., 2024, The Future Process of Japan’s Population Aging: A Cluster Analysis Using Small Area Population Projection Data. *Population Research and Policy Review*, 43:58.  
<https://doi.org/10.1007/s11113-024-09903-5>
2. Shiozawa, T., Hirata, H., Inoue, T., Kanikowska, D., and Takada, H., 2024, *Gerontology as an Interdisciplinary Science*. Springer, 262p.  
<https://doi.org/10.1007/978-981-97-2712-4>.
3. Inoue, T., 2025, The Progress of Population Aging in the Tokyo Metropolitan Area in the First Half of the 21<sup>st</sup> Century. pp. 16-41, Matsumoto S. ed., *Energy Consumption and Aging Population: Experiences from Japan and Spain*, Routledge, 205p.
4. 井上孝, 「全国小地域別将来人口推計システム」日本語版 (<http://arcg.is/1LqC6qN>) Ver.3.0 公開中
5. Inoue, T., The Web System of Small Area Population Projections for the Whole Japan (<http://arcg.is/1GkdZTX>) Ver.3.0 公開中
6. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the State of Washington (<http://arcg.is/2s5i2Vk>) Ver.1.0 公開中
7. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for Taiwan (<http://arcg.is/1rCPmm>) Ver.1.0 公開中
8. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the US. (<https://onl.la/HfU9yPZ>) Ver.1.0 公開中
9. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for South Korea. (<https://arcg.is/1Hfz1n>) Ver.1.0 公開中

10. Inoue, T., The Series of “The Web Mapping Systems of Small Area Population Projections” (SAPP series). (<https://arcg.is/0GmrfO>) 2025年2月28日公開

シンポジウム・講演・学会発表等

11. 井上孝, 「全国小地域別将来人口推計システム」を用いた洪水浸水想定区域の人口分析. 日本人口学会第76回大会, 中央大学.  
12. 井上孝・井上希, 小地域別将来推計人口に基づく日本の高齢化段階論. 地理空間学会第17回大会, 筑波大学.  
13. 井上孝, 韓国版小地域将来人口推計システムの公開について. 第83回日本人口学会九州地域部会, 福岡大学  
14. 【招待発表】井上孝, 小地域別将来人口推計ウェブマッピングシステムの開発について. Meet up in AGU2024, 青山学院大学.

社会活動・委員活動

15. 日本人口学会会長  
16. 人口学研究会理事  
17. 国立・社会保障人口問題研究所編集委員会委員

受賞

18. 2024年度シンフォニカ統計GIS活動奨励賞・・・公益財団法人・統計情報研究開発センターより、「全国小地域別将来人口推計システムの開発と社会的利活用」の活動を対象として受賞

メディア出演等

19. 2024年2月15日付日本経済新聞電子版記事「北九州、59年連続人口流出 外国人・若者定着で反転狙う」にて解説  
20. 2025年1月7日付け日本経済新聞電子版記事「北九州市、60年ぶり転入が提出上回る 24年は492人増」にて解説  
21. 2025年1月10日付け日本経済新聞九州版記事「「90万都市」流出止まるか 北九州市、60年ぶり転入超過」にて解説

## 塩澤 友規

所属：青山学院大学経営学部・教授

経歴等：<https://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kyoinId=ymiigsodggy>

### 研究成果の概要

個人研究として、人工知能を使用した3D ビデオ クリップを視聴する際の若者と高齢者の放射状運動の比較、仮想現実を使用した感覚矛盾を軽減するためのトレーニングシステム評価、脳波・胃電図から特徴的なパターンを抽出する変分オートエンコーダ、等に関し、高齢者に応用する実験・調査・研究を行った。また、青山学院大学保健管理センター関連の研究として、睡眠状況の変化がBMIに及ぼす影響、新型コロナウイルス感染症流行下の大学生の生活習慣とBMIの変化、大学生の妊孕性に関する知識、等についての調査・研究を行った。この他、高齢者医療制度等を含む社会医学系に関する第118回ならびに第119回の医師国家試験問題に関する解説書を執筆した。さらに、下記各種学会役員を担当した。

### 学術論文・著書・分担執筆

1. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会 編. 国試 119－第 119 回医師国家試験問題解説書. 東京: M3; in press.
2. Shiozawa T, Hirata H, Inoue T, Kanikowska D, Takada H (Ed). Gerontology as an Interdisciplinary Science (Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine). 2024 July, Springer, Singapore.
3. Itatu Y, Takada H, and Shiozawa T. Comparison of radial motions in the young with those in the elderly while viewing 3D video clips using artificial intelligence. Shiozawa T, Hirata H, Inoue T, Kanikowska D, Takada H (Ed). Gerontology as an Interdisciplinary Science (Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine) pp 77–87. 2024 July, Springer, Singapore.
4. 大場美保, 稲垣 中, 松本さゆり, 大里貴子, 松本由佳, 数野香苗, 菅原宏美, 丸山由衣, 東 栞, 塩澤友規, 小菌康範. 睡眠状況の変化がBMIに及ぼす影響について. CAMPUS HEALTH 61, 61-62, 2024.
5. 大場美保, 稲垣中, 松本さゆり, 大里貴子, 松本由佳, 数野香苗, 菅原宏美, 丸山由衣, 東 栞, 塩澤友規, 小菌康範. 新型コロナウイルス感染症流行下の大学生の生活習慣とBMIの変化. CAMPUS HEALTH 61巻, 59-60, 2024.
6. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会 編. 国試 118－第 118回医師国家試験問題解説書. 東京: TECOM; 2024.

### 学会発表

7. 数野香苗, 稲垣中, 松本さゆり, 大里貴子, 菅原宏美, 大場美保, 丸山由衣, 塩澤友規, 小菌康範. 大学生の妊孕性に関する知識についての調査. 第62回全国大学保健管理研究集会 (神戸), 2024.10.16.

社会活動・委員活動

8. 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合） 代議員
9. 日本脳神経超音波と栓子検出学会理事・評議員
10. 形の科学会運営委員（理事・事務局長）
11. 日本時間生物学会評議員
12. 日本宇宙航空環境医学会評議員
13. 日本栓子検出と治療学会理事・評議員
14. 第43回日本脳神経超音波学会総会一般口演座長
15. 日本認知症学会認定認知症専門医・指導医
16. 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
17. 日本内科学会認定内科医・認定総合内科専門医
18. 日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家
19. 社会医学系専門医協会認定社会医学系専門医・指導医

# 日置 俊次

所属：青山学院大学文学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_2/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_2/)

## 研究成果の概要

横光利一、宮沢賢治、芥川龍之介に関する論文3本を、それぞれ発表した。そのほか電子版で印象派絵画の資料集を1冊、短編小説集を1冊、単著として刊行した。編集、デザイン等も自分で行っている。また、短歌結社誌「かりん」の編集委員として、毎月、詠草選歌・賞審査・校正など歌誌発行業務を行い、さまざまな会を開いている。高齢者の方々と協力して、誌面作りの仕事をしている。短歌創作と発表が高齢者の生き生きした生活に深く関与していることを日々確認している。青山善光寺等で定例歌会を開き、高齢者の作品を読み、100歳を超える高齢者とも対話している。なお短歌は若者の文芸でもある。学生にも短歌の指導をし、学外短歌コンクールに応募させ、長年にわたり受賞者を輩出している。

## 学術論文（すべて単著）

1. 横光利一「蠅」と宮崎駿のアニメーション 「青山スタンダード」2025/01
2. 宮澤賢治「やまなし」における「クラムボン」とは何か 「青山語文」2025/03
3. 芥川龍之介「龍」論 「青山学院大学文学部紀要」2025/03

## 短歌作品（すべて単著）

4. 雲の角 「かりん」2025年3月
5. 六花の渦 「かりん」2025年2月
6. おうい雲よ 「かりん」2025年1月
7. 麦にまみれて「かりん」2024年12月
8. くらやみ 「かりん」2024年11月
9. 転失気之歌 「かりん」2024年10月
10. 富士 「かりん」2024年9月
11. 北港朝天宮 「かりん」2024年8月
12. 千年後 「かりん」2024年7月
13. アインシュタイン 「かりん」2024年6月
14. たましひ 「かりん」2024年5月
15. 世界は一つ 「かりん」2024年4月
16. はなびら 「短歌研究」2024年5・6月合併号

## 単行本（電子版、すべて単著）

17. 短編小説集『イレーヌの髪』 日置研究室 2024年3月
18. 『資料集 印象派の絵画』 日置研究室 2024年3月

## 社会活動・委員活動

19. 短歌結社「かりん」 編集委員・選歌委員
20. 表参道歌会 講師
21. かぐや会歌会 講師

# 米山 聡

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_6/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_6/)

## 研究成果の概要

実験-数値ハイブリッド法を用いて粘弾性体のひずみ分布さらには応力分布を得る方法を提案した。この方法では、画像相関法などの測定により得られた変位分布と同じ変位分布が得られるように、測定対象領域の境界条件を逆問題解析により決定する。その際、測定誤差の影響を低減するために適切化を行う。これにより、変位の決定と同時にひずみ分布を得ることができる。応力の分布は粘弾性体の力学特性を考慮する必要があるため、得られたひずみの時間変化から履歴積分を用いて算出する。画像相関法やモアレ法などの全視野計測法では、測定により得られる値は変位であり、ひずみを得るためには測定値の微分を行うことで誤差が増大するという問題がある。粘弾性体の場合はそのひずみの時間変化からの応力を求める必要があり、誤差の蓄積という観点から高精度な評価が難しいという問題があった。提案する方法はそのような困難を克服することができ、粘弾性体の応力・ひずみ解析に有効である。

## 学術論文・著書・分担執筆

1. Yoneyama, S., Iizuka, K., Ushijima, K., Chinzei, S. and Naito, J., Finite Strain Measurement and Stress Evaluation for Thin Plate Specimen Using Digital Image Correlation, *Materials System*, 41, 3–10 (2024).
2. Zhang, Y., Mitsui, M., Yoneyama, S., Aomura, S., Influence of Long-Term Use of American Football Helmets on Concussion Risk, *Brain Sciences*, 14(16), #537 (2024).
3. 雷友里恵, 飯塚啓輔, 米山聡, 重ね合わせの原理に基づくDIC-FEMハイブリッド法による粘弾性体の応力解析, *実験力学*, 24(3), 105–111 (2024)
4. Yoneyama, S. and Iizuka, K., J-integral Evaluation for Finite Strain Elastic-plastic Solid from Displacements Measured Using Digital Image Correlation, *Advanced Experimental Mechanics*, 9, 39–47 (2024).
5. Ueno, K., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Examination of Optimal Subset Size Selection in Digital Image Correlation, *Advanced Experimental Mechanics*, 9, 53–59 (2024).
6. Fujita, K., Iizuka, K., Yoneyama, S., Ushijima, K. and Chinzei, S., Stress Distribution Evaluation at Localized Necking Area Using the Virtual Fields Method with Digital Image Correlation, *Mechanical Engineering Journal*, 11(6), 24-00243 (2024).
7. Iizuka, K., Ito, T. and Yoneyama, S., Evaluation of Effect of Initial Defects on Strain Measurement by Evaluating Elastic Modulus of 3D Printed CFRP, *Mechanical Engineering Journal*, 11(6), 24-00133 (2024).

## シンポジウム・講演・学会発表

8. Yoneyama, S., Iizuka, K. and Rai, Y., A DIC-FEM Hybrid Method for Stress and Strain

- Analysis of Viscoelastic Body Based on the Principle of Superposition, 2024 SEM Annual Conference and Exposition on Experimental and Applied Mechanics, #17545 (Vancouver WA, June 3-6, 2024).
9. Sun, D., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Identifying Viscoelastic Constitutive Parameters Using the Stress Sensitivity Based Virtual Fields Method, 13th International Conference on Mechanics of Time-dependent Materials, 21 (Tokyo, July 7-11, 2024).
  10. Iizuka, K. and Yoneyama, S., Effect of Moisture Absorption on Mechanical Properties of 3D Printed Thermoplastic Materials, 13th International Conference on Mechanics of Time-dependent Materials, 36 (Tokyo, July 7-11, 2024).
  11. Oomori, T., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Observation of Crack Acceleration and Deceleration Phenomena in Rubber Using Digital Image Correlation, 13th International Conference on Mechanics of Time-dependent Materials, 42 (Tokyo, July 7-11, 2024).
  12. Nakachi, A., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Strain Measurement near Fiber-Matrix Interface of CFRP Cross Section Using DIC-FEM Hybrid Method, 18th International Conference on Advances in Experimental Mechanics (Liverpool, September 3-5, 2024).
  13. Yamaguchi, Y., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Deformation Behavior Analysis of Honeycomb Structure Under In-plane Compression Using Global DIC, Photomechanics & iDICs Conference, p. 29 (Clermont-Ferrand, October 29-31, 2024).
  14. Seki, A., Iizuka, K., Yoneyama, S., Takayama, Y., Arakawa, K. and Takanashi, M., Evaluation of Influence on Results of Digital Image Correlation by Window of Constant Temperature Bath, Photomechanics & iDICs Conference, p. 78 (Clermont-Ferrand, October 29-31, 2024).
  15. Uchiumi, Y., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Evaluation of Shape Recovery Behavior of 3D Printed Shape Memory Polymer Using Digital Image Correlation, The 14th Asia-Pacific Conference on Fracture and Strength, A202 (Matsue, November 25-29, 2024).
  16. Oomori, T., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Investigation of Relationship between Crack Tip Shape and Crack Growth Behavior of Rubber under High Speed Crack Growth, The 14th Asia-Pacific Conference on Fracture and Strength, A216 (Matsue, November 25-29, 2024).
  17. Fujita, K., Iizuka, K., Yoneyama, S., Ushijima, K. and Chinzei, S., Evaluation of Material Properties at a Localized Neck by Data Driven Identification, The 14th Asia-Pacific Conference on Fracture and Strength, A222 (Matsue, November 25-29, 2024).
  18. Hamasaki, K., Ashizawa, T., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Development of Double-wall Structure Cell to Enhance Sound Insulation Performance, The 14th Asia-Pacific Conference on Fracture and Strength, A232 (Matsue, November 25-29, 2024).

19. 関彩音, 飯塚啓輔, 米山聡, 高山泰弘, 荒川幸次, 高梨正祐, 温槽の窓が画像相関法の測定結果に与える影響の評価, 第54回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演論文集, 59–62 (2024).
20. 関田謙介, 飯塚啓輔, 米山聡, 面内ハニカム構造の特性に与える寸法及び形状依存性の評価, 第54回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演論文集, 77–80 (2024).
21. 飯塚啓輔, 伊藤拓美, 米山聡, 3DプリントCFRPのひずみ測定に与える初期欠陥の影響, 第15回日本複合材料会議, #3D03 (2024).
22. DINGSI Sun, 飯塚啓輔, 米山聡, 応力感度に基づく仮想変位場を用いた粘弾性材料特性の同定, 応力・ひずみ測定部門講演会講演論文集(2023年度第3回), 12–19 (2024).
23. 寺西翔太, 飯塚啓輔, 米山聡, グローバルDICによる曲げたわみ測定に対するせん断ロッキングの影響, 日本実験力学学会講演論文集(2024年度年次講演会), No. 24, 95–96 (2024).
24. 工藤三彰, 飯塚啓輔, 米山聡, 桑原啓, 高野秀朋, 自重たわみを除去した半導体ウエハの反りの同定, 日本実験力学学会講演論文集(2024年度年次講演会), No. 24, 105–106 (2024).
25. 米山聡, 飯塚啓輔, FEグローバルDICを用いたひずみ測定とDVCへの拡張, 第31回機械材料・材料加工技術講演会, No. 24-26, A2-02 (2024).
26. 中地彩花, 飯塚啓輔, 米山聡, 画像相関-有限要素ハイブリッド解析法を用いたCFRP繊維樹脂界面近傍のひずみ測定, 日本非破壊検査協会2024年度秋季講演大会講演概要集, 141–144 (2024).

#### 社会活動・委員活動

27. 自転車産業振興協会新商品・新技術研究開発委員会 委員長
28. 相模原市中小企業研究開発補助金 外部専門家
29. Experimental Mechanics, Associate Technical Editor
30. Strain, Editorial Board
31. Journal of Strain Analysis for Engineering Design, Editorial Board
32. International Journal of Fracture, Regional Editor
33. Mechanics of Time-dependent Materials, Editorial Board
34. International Conference on the Mechanics of Time-dependent Materials, Chairperson of Organizing Committee
35. BSSM's International Conference on Advances in Experimental Mechanics, Scientific Committee
36. Photomechanics – International DIC Society 2024 Conference, Scientific Committee
37. 日本機械学会材料力学部門 論文編修委員
38. 日本機械学会学術誌 エディタ
39. 日本非破壊検査協会 編集運営委員 論文審査委員
40. 日本実験力学学会 理事
41. 製品安全協会 専門部会委員長

# 栗原 陽介

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_7/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_7/)

## 研究成果の概要

今年度は、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断および治療支援を目的とし、無拘束で呼吸筋力（最大吸気圧，最大呼気圧）を推定する手法の開発に取り組んだ。胸部圧力変動モデルを構築し、圧力センサから得られる信号からモデルにもとづく特徴量を抽出した。これらの特徴量にガウス過程回帰を適用することで、最大吸気圧，最大呼気圧を高精度に推定した。また、高齢者介護における排泄支援の課題解決を目的とし、排尿時刻を高精度に予測する手法の開発にも取り組んだ。従来の蓄排尿動態プロセスモデルに加え、尿中のカリウムイオンおよびナトリウムイオン濃度を考慮し、さらに予測排尿時刻にたいしモデルのパラメータに基づく誤差補正を適用することで、精度を向上する手法の開発にも取り組んだ。

## 国際会議(査読あり)

1. Ashikawa, T. Ito, S. Ishizu, and Y. Kurihara, "Detecting of Deliberate Responses due to Social Desirability Bias in Multiple-Choice-Based Personality Tests Using Occipital Lobe EEG Beta Wave Content Rates," 2024 63rd Annual Conference of the Society of Instrument and Control Engineers of Japan (SICE), pp.1291-1294 (Aug. 2024)
2. Y. Ashikawa, T. Ito, S. Ishizu, and Y. Kurihara, "A Method for Classification NEO-FFI Answers Fabricated and Advantageous due to Psychological Bias Using Brainwave Specific Brain Activity Networks," 2024 Asia Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference (APSIPA ASC) (Dec. 2024)
3. Y. Ashikawa, and Y. Kurihara, "Proposal of a Brain Activation Five-Layer Network with Five Types of EEG for Classification of Artificial Responses in NEO-FFI by Utilizing Graph Fourier Transform," 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics, (Jan. 2025)
4. Y. Ashikawa, and Y. Kurihara, "A Method for Classifying Fabricated Responses due to Psychological Biases Using Brain Activity Networks Based on Granger Causality in EEG Responses to the NEO-FFI," The International Symposium on Integrated Uncertainty in Knowledge Modelling and Decision Making (IUKM) (Mar. 2025)
5. Y. Ashikawa, and Y. Kurihara, "Proposal for a Method to Classify Fabricated Responses Using a Psychological Bias Loading Model Based on Factor Analysis of EEG During NEO-FFI Responses," The 13th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2025 (Mar. 2025)

## 国内発表(査読あり)

6. 桑原拓大, 栗原陽介, “英語リーディング刺激によるTOEICスコア推定のための脳血流加速度信号に基づくReading-Induced Language Proficiency Networkの構築”IIP 2025(2025年3月)
7. 石原滉大, 芦川友仁, 栗原陽介, “社会的望ましきバイアス尺度変換法による脳波を用いたNEO-FFI作為回答判別手法の提案”IIP 2025(2025年3月)
8. 阿部龍誠, 栗原陽介, “頸部振動信号を用いた嚥下プロセス時間推移に基づく摂取水分量推定手法の構築”IIP 2025(2025年3月)
9. 北上隼, 栗原陽介, “EQSにおける対人コントロールスコア推定のためのグレンジャー因果に基づくメンタライジングネットワークモデルの構築”IIP 2025(2025年3月)
10. 池田優莉朱, 栗原陽介, “無拘束圧力センサを用いた安静呼吸時に伴う胸部圧力変動モデルの構築及び呼吸筋力推定システムの提案”IIP 2025(2025年3月)
11. 岡本拓海, 栗原陽介, “尿中カリウム, ナトリウム濃度および蓄排尿動態プロセスモデルにおける誤差補正を用いた排尿時刻逐次予測手法の検討”IIP 2025(2025年3月)
12. 齋藤香帆, 栗原陽介, “高次元分光画像における吸光スペクトルの非線形的構造を考慮した果物の糖度推定手法の提案”IIP 2025(2025年3月)

受賞国内発表(査読なし)

13. 堀池哲平, 栗原陽介, “コンタクトマイクを用いた睡眠時における生体音の無拘束型聴診手法の提案”FIT 2024 第23回情報科学技術フォーラム, (2024年9月)
14. 鈴木優人, 栗原陽介, “共同作業におけるコミュニケーションプロセス評価のための効率性指標推定手法の提案—脳血流による因果性ネットワーク構築におけるグレンジャー因果と移動エントロピーの比較—”, FIT 2024 第23回情報科学技術フォーラム, (2024年9月)
15. 芦川友仁, 伊藤崇, 石津昌平, 栗原陽介, “パーソナリティ検査における選択式アンケート回答時の脳波を用いた社会的望ましきバイアスによる作為的回答判別手法の提案”FIT 2024 第23回情報科学技術フォーラム, (2024年9月)
16. 堀池哲平, 栗原陽介“就寝時における掻破音の無拘束計測手法の提案”, 生体医工学シンポジウム2024, (2024年9月)
17. 鈴木智陽, 栗原陽介, “設備診断におけるピエゾフィルムを用いた単一デバイス・マルチモーダルセンサの開発”日本設備管理学会 2024年度 秋季研究発表大会(2024年10月)
18. 千葉圭人, 栗原陽介, “廃棄圧縮空気を利用した温度差発電によるマイクロエネルギーハーベスティング手法の提案—ペルチェアレイにおける素子の設置枚数による電力回収効率の比較—”日本設備管理学会 2024年度 秋季研究発表大会(2024年10月)
19. 芦川友仁, 伊藤崇, 石津昌平, 栗原陽介, “社会的望ましきバイアスの影響を受けた設備管理における報告書の信頼性評価手法の開発—心理アンケートにおける脳波を用いた作為回答の判別基礎実験—”日本設備管理学会 2024年度 秋季研究発表大会(2024年10月)
20. 鈴木優人, 栗原陽介, “三変量グレンジャー因果モデルによる脳血流量の相互作用を考慮した共同作業効率指標の推定”, HCGシンポジウム2024 (2024年12月)

21. 八幡和磨, 栗原陽介, “合意形成過程における潜在-顕在情報間での因果性ネットワークを用いた選好一致度判別手法の提案”, HCGシンポジウム2024 (2024年12月)
22. 芦川友仁, 伊藤崇, 石津昌平, 栗原陽介, “NEO-FFI回答時の脳波に基づく脳部位間の移動エントロピーを用いた心理バイアスによる作為的回答判別手法の提案”, HCGシンポジウム2024 (2024年12月)
23. 岩崎生芽, 栗原陽介, “繊維間吸光特性無相関化行列を用いたRGB画像からの高次元分光画像推定による生地繊維判別手法の提案”情報処理学会 第87回全国大会(2025年3月)

# 石井 慶子

所属：中央大学理工学部・准教授

経歴等：<https://sites.google.com/view/keiko-ishii/resume?authuser=0>

## 研究成果の概要

新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防の知見を得る必要があったため、共同研究で呼気可視化計測を行った結果について、動画メディア等での発信を行った。自励振動ヒートパイプ内部流動について、流れ場と温度の同時計測を行った。磁性流体マイクロカプセルについて、強制流動場におけるクラスター形成様相を特定するため、可視化実験を行った。2色粒子を用いた、温度速度計測法の開発を進めた。

## 書籍

1. Gerontology as an Interdisciplinary Science (Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine) (担当:共著, 範囲:Chapter 18) Springer 2024

## 学術論文

2. Keiko Ishii\*, Takahiro Ogiyama, Koji Fumoto, Yuta Nishina, Enhanced thermal conductivity of fluids by percolating high-concentration few-layer graphene, Applied Physics Letters 125(2) 2024 (Corresponding Author)
3. Shunsuke TSUTSUMIUCHI, Keiko ISHII, Koji FUMOTO, Basic research on heat transport characteristics of low filling ratio pulsating heat pipe (Effect of heat pipe installation posture on heat transport performance), Transactions of the JSME (in Japanese) 90(930) 23-00268 2024.

## 学会発表

4. Keiko ISHII, Temperature dependence of cluster formation behavior on temperature sensitive magnetic microcapsules, 10th World Conference on Experimental Heat Transfer, Fluid Mechanics and Thermodynamics (ExHFT-10)
5. Hibiki Hanada, Keiko Ishii, Koji Fumoto, Synthesis and Evaluating Characteristics of Multifunctional Capsule, The 3rd Asian Conference on Thermal Sciences June 23-27, 2024, Shanghai, China
6. 藤田 康生, 石井 慶子, 畑本 明彩未, 麓 耕二, 流れ場に及ぼす血液熱交換カテーテル形状の特性, 2024 可視化情報シンポジウム 2024年7月19日
7. 山口 研成, 石井 慶子, 2色マイクロ粒子による温度速度場同時計測の開発, 日本伝熱学会 第61回日本伝熱シンポジウム, 神戸国際会議場, 2024年5月29日

## 社会活動・委員活動

8. 日本時計学会, 運営委員
9. 日本実験力学会, 評議員

10. 日本機械学会, 関東支部 東京ブロック 評議員
11. 日本伝熱学会, 広報委員 (正)
12. IEEE Japan Council, JC Promotion Ad-hoc Committee Chair
13. IEEE Humanitarian Technology Conference (HTC) 2025, Publication Vice Chair
14. Japan skeptics, 運営委員
15. IEEE SIGHT (Special Interest Group on Humanitarian Technologies) Tokyo, committee
16. Sensors, Reviewer Board

#### 寄稿

17. 多機能性流体の創成と流れ場の定量計測, 石井慶子, 日本機械学会熱工学部門ニュースレター TED Newsletter 103 7-11 2024年9月
18. 呼気・カルマン渦の可視化～ちょっとした工夫で高まる発信力～, 石井慶子, クリーンテクノロジー 34(4) 39-43 2024年4月

# 竹下 啓

所属：東海大学医学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_5/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_5/)

## 研究成果の概要

高齢者も対象となる在宅や施設における医療・ケアは、医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員、療法士、介護士等の多施設多職種協働によって提供される。しかしながら、医療・ケアチーム、患者（サービス利用者）本人、家族等の間において、適切な合意形成が困難なことがある。そこで、今年度も在宅や施設における倫理的問題を同定し、解決を支援するための研究活動を継続した。また、遺伝医学に関する研究も行なった。

## 学術論文

1. Takeshita K, Nagao N, Dozono T, Kamiya K, Miura Y. Withdrawal of life-sustaining treatment in Japanese home care: A cross-sectional survey. *J Gen Fam Med.* 2025;00:1-9.
2. Unzaki A, Takahashi K, Ohnuki Y, Yamazaki Suzuki M, Takeshita K. Japanese General Clinical Oncologists' Knowledge and Real-world Experiences of Cancer Genomic Medicine: A Nationwide Web-based Survey Study. *JMA J.* 2024;7(2):258-266.
3. Nagao Y, Takeshita K. Heritability of cancers in Japanese population: Estimation from recent cohort data. *Clin Genet.* 2024;106(2):204-208.
4. Ishikawa M, Nakamura K, Kawano R, Hayashi H, Ikeda T, Saito M, Niida Y, Sasaki J, Okuda H, Ishihara S, Yamaguchi M, Shimada H, Isobe T, Yuza Y, Yoshimura A, Kuroda H, Yukisawa S, Aoki T, Takeshita K, Ueno S, Nakazawa J, Sunakawa Y, Nohara S, Okada C, Nishimiya K, Tanishima S, Nishihara H. Clinical and Diagnostic Utility of Genomic Profiling for Digestive Cancers: Real-World Evidence from Japan. *Cancers (Basel).* 2024;16(8):1504.
5. 堂囿俊彦、竹下啓 【透析医療を巡る臨床倫理の側面】透析の不開始・中止の倫理的問題 *臨床透析* 2024; 40 (10): 1294-1299.
6. 竹下啓 病院経営者に伝えたい臨床倫理支援 *病院経営羅針盤* 2024; 15 (262): 22-27.
7. 運崎愛、竹下啓 【外科修練医必携 これだけは押さえておきたい外科日常診療の基礎】 *アドバンス・ケア・プランニング 外科* 2024; 86 (5): 650-654.

## 分担執筆

8. 竹下啓 「緩和ケアで考慮すべき高齢者の特性」、「患者の意向の尊重と家族等の役割」、「対人コンフリクト（interpersonal conflict）の解決」、「意思疎通のできない入所者を花見に参加させるべきか-生活における「思いやり」の態度は緩和ケアに通じる」 日本臨床倫理学会「高齢者の慢性疾患における緩和ケア」ワーキンググループ（編著） *高齢者の慢性疾患における緩和ケア：QOL向上を目指す包括的ケア*

- ホスピスケアから緩和ケアへ、その先へ- 2024年9月 へるす出版 東京
9. 堂園俊彦、竹下啓 (編著)、神谷恵子、長尾式子、三浦靖彦 (著) 倫理コンサルテーションハンドブック第2版 2024年8月 医歯薬出版 東京
  10. Takeshita K. Advance Care Planning from Clinical Ethics Perspectives. Shiozawa T, Hirata H, Inoue T, Kanikowska D, Takada H (Ed). Gerontology as an Interdisciplinary Science (Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine) pp125-134. 2024 July, Springer, Singapore.

#### シンポジウム・講演・学会発表

11. 竹下啓 シンポジウム：倫理コンサルテーションの質 日本臨床倫理学会第12回年次大会 2025年3月16日 東京
12. 竹下啓 臨床試験と倫理指針について PAP応用講座② 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 2025年3月8日 神戸
13. 瀧本禎之、長尾式子、竹下啓、金田浩由紀、三浦靖彦、金城隆展 公募ワークショップ：臨床倫理コンサルタントへのキャリアパスの多様性と専門性を考える 日本生命倫理学会 第36回年次大会 2024年11月17日 茨木市
14. 竹下啓 教育講演：明日からの診療に活かす臨床倫理 第97回日本整形外科学会学術集会 2024年5月25日 福岡市
15. 竹下啓 教育講演：Shared Decision MakingとAdvance Care Planningの臨床倫理 第68回 日本リウマチ学会総会・学術集会 2024年4月20日 神戸市
16. 竹下啓 シンポジウム：公衆衛生倫理における資源配分と医療の自己決定権のバランス 資源配分と医療の自己決定権のバランスを誰が決めるべきか 第10回日本医療安全学会学術総会 2024年4月14日 東京

#### 社会活動・委員活動

17. 北里大学白金治験審査委員会副委員長
18. 北里大学医学部医の倫理委員会委員
19. 慶應義塾大学医学部倫理委員会委員
20. 慶應義塾臨床研究審査委員会委員
21. 慶應義塾大学病院医師主導治験審査委員会委員
22. 公益財団法人生存科学研究所専務理事
23. 一般財団法人公正研究推進協会評議員
24. 日本臨床倫理学会理事
25. 日本生命倫理学会理事
26. 生命・医療倫理研究会副会長
27. 臨床倫理編集委員
28. CBEL Report編集委員
29. 生命倫理編集委員
30. 生存科学編集委員

# 佐野 智子

所属：城西国際大学福祉総合学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_9/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_9/)

## 研究成果の概要

難聴や加齢性難聴の人々へのコミュニティによるサポートに関して実践的研究を行った。オンラインを使用しての難聴当事者のピアサポートグループ「きこえカフェ」を実施し、その特徴と役割について検討した（科研基盤研究（C）課題番号19K02219）。また、地域住民を対象としたワークショップを実施し、難聴と補聴器に関する理解を深めるための「耳の健康教育プログラム」の検証を継続している（科研基盤研究（C）課題番号19K02219）。共同研究者である長田久雄教授主宰の「難聴研究会」に継続的に参加し、難聴に対する人々の認知や難聴高齢者の心理、および難聴者への支援について、検討・研究を行っている。

## 学術論文・著書・分担執筆

1. 勝谷紀子・佐野智子（2024） 難聴者の交流会「きこえカフェ」の機能：ソーシャル・キャピタルを形成する場としての役割に注目して 社会的信頼研究, 第4号, 57-65.
2. 佐野智子・小川智子・森田恵子・長田久雄（2025） 医療系専門職養成校における加齢性難聴に関する教育の現状—国家試験出題基準と教科書の記載を手がかりとして— 城西国際大学紀要, 第33巻第3号, 1-15（印刷中）.
3. Sano T, Katsuya N, Osada H, Morita K. Educational and Collaborative Model for Early Detection and Intervention of Age-related Hearing Loss to Enhance Health and Well-Being of the Aged. Shiozawa T, Hirata H, Inoue T, Kanikowska D, Takada H (Ed). Gerontology as an Interdisciplinary Science (Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine) pp181-203. 2024 July, Springer, Singapore.

## 翻訳

4. 佐野智子（2025）第12章 老化と老化に関連する障害, 勝谷紀子・高山亨太・佐藤剛介・柴田邦臣（監訳）『障害という経験を理解する—社会と個人へのアプローチ』（Dana S. Dunn(ed.) Understanding the Experience of Disability: Perspectives from Social and Rehabilitation Psychology (Academy of Rehabilitation Psychology Series)）

## シンポジウム・学会発表

5. Sano T and Osada H, Age-related hearing loss in Japan: Current situation and challenges, II International Geriatrics and Gerontology Meetings Symposium Disaster Gerontology: Collaboration of Geriatricians and Gerontologists in Disasters (March 28, 2024; online) シンポジウム話題提供.
6. 佐野智子（2024）「多様な聞こえを科学する」日本心理学会第88回大会公募シンポ

ジウム 指定討論 (July, 2024) .

7. 佐野智子・勝谷紀子 (2024) 難聴・聞き取り困難者の交流会「きこえカフェ」の参加者体験—リピーターの語りの内容分析— 日本心理学会第88回大会, 熊本.
8. 勝谷紀子・佐野智子 (2024) 絵本に生きる難聴者の世界, 日本心理学会第88回大会, 熊本.
9. 佐野智子・勝谷紀子・森田恵子・長田久雄 (2024) 地域在住高齢者を対象とした「耳の健康教育」: 難聴の早期発見・早期受診をめざして, 第83回日本公衆衛生学会総会, 札幌.
10. 佐野智子・勝谷紀子・森田恵子・長田久雄 (2024) 地域在住高齢者を対象とした「耳の健康教育」の効果の検討, 第19回日本応用老年学会大会, 東京.

#### 社会活動・委員活動

11. 佐野智子 (2024) 「対人援助①—中途失聴・難聴者の臨床心理」, 令和6年度「要約筆記者指導者養成研修 ステップアップコース【難聴講師】」における講義 (2024.9.15) .
12. 勝谷紀子・佐野智子・杉浦彩子 きこえカフェin 刈谷 2024年9月16日実施.
13. 勝谷紀子・佐野智子 難聴当事者のピアサポートグループ「きこえカフェ」(主催: 勝谷紀子) の実施 (2024/4/14, 5/12, 6/9, 7/7, 8/25, 9/22, 10/20, 11/17, 12/15, 2025/1/19, 2/16, 3/9) .
14. 「難聴研究会」実施 (2024/5/11, 7/22, 8/26, 10/26, 12/5, 2025/1/31) .

## 長田 久雄

所属：桜美林大学大学院・特任教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_10/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_10/)

### 研究成果の概要

本研究所の佐野智子客員研究員とともに、加齢性難聴に関する研究を継続して行っている。加齢性難聴は認知症やうつ病とも関連していると考えられており、その対応・支援は重要である。他にも、高齢者の心身の健康、well-beingや心理的なテーマについて研究しており、今年度は感謝尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。

### 学術論文・著書・分担執筆

1. Yamazaki, S., Ono, M., Shimada, C., Hyashida, C. T., Tomooka, M., Osada, H. and Ikeuchi, T. Feasibility of a Simplified Version of Guided Autobiography in Community-Dwelling Older Adults: A Pilot Study. *The International Journal of Reminiscences and Life Review*. Vol.10, Issue1, 1-5. 2024.
2. Sano, T., Katuya, N. Osada, H. and Morita, K. Educational and Collaborative Model for Early Detection and Intervention of Age-Related Hearing Loss to Enhance Health and Well-Being of the Aged. *Gerontology as an Interdisciplinary Science*. 181-203. 2024, Springer, Singapore.
3. 加藤佐千子・長田久雄, 地域在住高齢者の食物選択動機と健康満足感との関連, *生活環境研究*, 第7号, 1 - 10, 2024.
4. 小野真由子・長田久雄, 高齢者用感謝尺度の作成と妥当性および信頼性の検討. *老年社会科学*2025.1.20.46(4), 327-337.
5. 佐野智子・小川智子・森田恵子・長田久雄 (2025) 医療系専門職養成校における加齢性難聴に関する教育の現状—国家試験出題基準と教科書の記載を手がかりとして— *城西国際大学紀要*, 第33巻第3号, 1-15 (印刷中).

### シンポジウム・講演・学会発表

6. Osada, H. - *Gratitude Research Among Older Adults In Japan: Current Status And Future Perspective*. XI. Uluslararası Sosyal ve Uygulamalı Gerontoloji Sempozyumu. 20-21-22 Kasım 2024. “Gerontolojik ve Geriatrik Perspektiften Yaşlanma”
7. Sano, T. and Osada, H., Age-related hearing loss in Japan: Current situation and challenges, II International Geriatrics and Gerontology Meetings Symposium Disaster Gerontology: Collaboration of Geriatricians and Gerontologists in Disasters (March 28, 2024; online) シンポジウム話題提供
8. 佐野智子・勝谷紀子・森田恵子・長田久雄 (2024) 地域在住高齢者を対象とした「耳の健康教育」: 難聴の早期発見・早期受診をめざして, 第83回日本公衆衛生学会総会, 札幌.
9. 佐野智子・勝谷紀子・森田恵子・長田久雄 (2024) 地域在住高齢者を対象とした「耳の健康教育」の効果の検討, 第19回日本応用老年学会大会, 東京.

社会活動・委員活動

10. 認知症介護研究・研修仙台センター研究倫理委員会委員長
11. 財団法人認知症予防財団理事
12. 町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会会長
13. 神奈川県介護予防事業市町村支援委員会専門部会委員

# 平井 誠

所属：神奈川大学人間科学部・教授

経歴等：[https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_20/](https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_20/)

## 研究成果の概要

日本における高齢人口移動の動向を明らかにするための調査を継続して実施した。またアメリカ合衆国における人口高齢化について、高齢人口の分布や人口移動から分析した。日本に比べベビーブームが長く続いたため、アメリカ合衆国の高齢化は比較的緩やかに進行してきたが、ベビーブーマーの加齢とともに高齢化が進行していることや居住地移動の動向を明らかにした。学会活動としては、日本地理学会、地域地理科学会、地理空間学会など複数の学会で役員を務め、学会運営を担当した。

## 学術論文・書評

1. Hirai, M. 「Elderly Migration in Tokyo Metropolitan Area, Japan」 in Shiozawa, T., Hirata, H., Inoue, T., Kanikowska, D. and Tkada, H. eds. (2024) 『*Gerontology as an Interdisciplinary Science (Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine)*』 Springer, pp. 91-103.
2. 平井誠 (2024) : Yoshitaka Ishikawa eds. 『*Japanese Population Geographies I: Migration, Urban Areas, and a New Concept*』, 『*Japanese Population Geographies II: Minority Populations and Future Prospects*』, 『人口学研究』, 60, pp. 51-54.

## 学会発表

3. 平井史夫・平井 誠 (2025) 「視覚障害学生向け触地図教材の製作」(日本地理学会 春季学術大会 2025年3月19日 駒澤大学).

## 社会活動・委員活動

4. 公益社団法人 日本地理学会 理事, 百周年記念事業実行委員会 委員
5. 地域地理科学会 理事
6. 地理空間学会 評議員
7. 横浜市神奈川区 わが町かながわとっておき実行委員会 委員

# 草野 邦明

所属：群馬大学情報学部・助教

経歴等：[https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_22/](https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_22/)

## 研究成果の概要

ジェロントロジー研究所における研究課題のほか、継続課題として、「国勢調査 8 分の 1 地域メッシュ統計データの社会科学分野における利活用」（科学研究費助成事業）、「国勢調査小地域統計データの利活用に関する研究」（共同研究）の 2 件、新規課題として「既存店舗における集客人口と売上予測の研究」（受託研究）、「新規店舗候補地の探索と立地評価」（受託研究）、「アジア太平洋地域の小地域別将来人口推計に関するウェブマッピングシステムの構築」（科学研究費助成事業）、「群馬県中西部地域におけるジオデモグラフィックスの構築とオープンデータ化」（研究助成）の 4 件の研究課題に取り組み、論文 3 編、学会発表 5 件の成果を挙げた。

## 学術論文・著書・分担執筆

1. 草野邦明, 2025. 2020 年における東京都区部の居住地域分類. 応用社会学研究, 67 : (印刷中).
2. 草野邦明・奥貫圭一, 2024. 小地域統計データの異なる空間的スケールによって生じる人口分布の差. えりあぐんま, 30 : 15-22.
3. 草野邦明・奥貫圭一, 2024. 国勢調査 8 分の 1 地域メッシュを用いた 指定緊急避難場所別避難者数の推計 ～避難場所の収容人員と避難者の年齢階級を考慮して. ESTRELA, 364 : 22-27.

## シンポジウム・講演・学会発表

4. 草野邦明, 国勢調査 8 分の 1 地域メッシュを用いた小売店舗の商圈分析. 2024 年度日本人口学会関西地域部会.
5. 草野邦明, 首都圏のGMSにおける商圈人口と店舗. 2024年度日本人口学会中部地域部会.
6. 草野邦明, GIS を援用したスーパーマーケットの商圈分析：商業施設型店舗を事例として. 2024年度日本人口学会第1回東日本地域部会.
7. 草野邦明, POSデータを用いた総合スーパーマーケットの商圈分析. 第83回日本人口学会九州地域部会.
8. 草野邦明, 4 年齢別人口による東京都区部の住宅地域のクラスタリングー 8 分の 1 地域メッシュによる分析ー. 日本人口学会第76回大会.

## 社会活動・委員活動

9. 地理情報システム学会代議員・教育委員会 副委員長
10. 群馬地理学会編集委員
11. 国立社会保障・人口問題研究所一般会計プロジェクト「人新世における人口動態と環境の新たな相互作用メカニズムに関する総合的研究（人口と環境）」外部委員

## 12. 東京都統計グラフコンクール審査委員

# 井上 希

所属：国立社会保障・人口問題研究所・研究員

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_12/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_12/)

## 研究成果の概要

昨年度に引き続き2024年度はジェロントロジー研究所のWebページや研究所の紹介動画の管理、また、老年学に関連する研究発表を実施いたしました。2023年よりAfter/with COVID-19期に移行し、2024年度も多くの研究学会に参加する機会に恵まれました。一方で、世界的な政治経済の不安定により対面開催が中止となった研究学会や会議もございました。COVID-19の蔓延期に培ったオンライン会議の技術や普及によって時間・場所を問わずシームレスに会議が開催できるようになったため、今後も対面開催と並行しオンライン会議が開催されるのではないかと存じます。研究について、これまでは主に日本のエネルギー消費についての将来推計ならびに高齢化の影響についての分析を実施して参りました。そして、本年度より熱中症死亡に焦点を当て、特に高齢化の視点から傾向分析を実施しております。来年度は国際学会をはじめとして多くの場面で研究報告することを予定しております。

## 学術論文・書籍

1. Inoue, N., (2024), "Simplified Projection of the Insurance Premiums in the Greater Tokyo Area, 2020–2060," *Gerontology as an Interdisciplinary Science*.
2. Inoue, N., Matsumoto, S., and Mayumi, K., (2024), "Residential energy consumption by Japan's super-aging society: visioning a more sustainable future up to 2040," *Population and Environment* 46(2).
3. Inoue, T., and Inoue, N., (2024), "The Future Process of Japan's Population Aging: A Cluster Analysis Using Small Area Population Projection Data," *Population Research and Policy Review* 43(4).
4. 小池司朗・菅桂太・藤井多希子・小山泰代・貴志匡博・久井情在・中川雅貴・大泉嶺・井上希・西岡八郎・江崎雄治・山内昌和・丸山洋平,(2024),「地域人口の将来見通しー日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）よりー」,『厚生指標』,71(6), pp34-41.

## 講演・学会発表

5. Inoue, N., (2024), "Projections of Long-Term Care Insurance Premiums in the Tokyo Metropolitan Area, 2030–2060," *Population Association of America 2024 Annual Meeting* (4.18).
6. Inoue, N., (2024), "Population Aging and Economic Growth in Japan: The Heavy Weight on Our Sholder," *Trade Winds and Population Waves: Navigating Global Futures*, at St. Catherine University (11.19).
7. 井上孝・井上希, (2024), 「小地域別将来推計人口に基づく日本の高齢化段階論」,『第17回地理空間学会大会』(6.29).

8. 井上希, (2024), 「地域人口の構造」, 『立教大学社会学部講義「社会人口学」』(10.17).
9. 井上希, (2024), 「人口高齢化と年金問題」, 『立教大学社会学部講義「社会人口学」』(11.14).

社会活動・委員活動

10. 日本人口学会 編集委員会 幹事
11. 青山学院大学 総合研究所 客員研究員

# 朝倉 匠子

所属：青山学院大学ジェロントロジー研究所・客員研究員

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_13/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_13/)

## 研究成果の概要

晩年の QOL の低下に最も関係するのが骨と言われて久しい。しかし実際に高齢者の 80%以上が骨のケアをしていない。私が主催するオンラインサロンでも股関節、膝の痛みが話題となっていた。そこで骨密度測定の重要性、骨の周りの筋肉の重要性、移動するときの体幹筋（体感ボックス）を使用することの重要性を講義し、鍛え方を指導したところ、かなりの反響を得た。

集英社デジタル雑誌 Our Age 「キラキラの源」連載寄稿

1. 第 175 回『フジヤマシスターズ初オリジナル曲「ガタイのいい男」6/9 に銀座ケントスで初披露します！』2024 年 5 月 14 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/355136/>
2. 第 176 回『フジヤマシスターズ初のオリジナル曲「ガタイのいい男」お披露目ライブ！1920 年代風ファッションで盛り上がりました』2024 年 6 月 23 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/359167/>
3. 第 177 回『母子生活支援施設のお母さんたちにハンドマッサージを』2024 年 7 月 26 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/363053/>
4. 第 1 回『海外で活躍する 12 人の若手バレエダンサーによる公演「Ballet the New Classic (バレエ ザ ニュー クラシック)」に感激しました』2024 年 8 月 13 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/364791/>
5. 第 178 回『K バレエカンパニーのプリンシパル堀内将平くんから感じる「聞く力」と「相手へのリスペクト」』2024 年 9 月 8 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/367390/>
6. 第 179 回『髪に艶を出したくて、ヘアアイロンに初挑戦しています』2024 年 9 月 28 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/370070/>
7. 第 180 回『ついに「ガタイのいい男」MV が完成！YouTube に公開しました』2024 年 11 月 15 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/373826/>
8. 第 181 回『サロンの重要イベント当日に夜便でハワイ島へ。5 日連続ゴルフをこなして体力に自信！』2024 年 12 月 22 日  
<https://ourage.jp/life/lifestyle/378075/>

## 社会活動

9. 一般社団法人 i・shi・zu・e のサポート
10. 母子施設のお母さん方にアロマハンドマッサージを行う（2024 年 6 月）

## 11. ホームレスの人々に渡す年末のパッケージ制作 (2024年12月)

# 大西 典子

所属：山野美容芸術短期大学美容総合学科・教授

経歴等：[https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_15/](https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_15/)

## 研究成果の概要

超高齢社会に、ケアとしての美容は、がんや認知症などにより社会とのつながりが低下しやすくなる人々に重要な課題解決の一助となる。そのケアとしての美容を提供するための多職種連携と人材育成の仕組みをイノベーションするための研究活動を継続した。また、人材育成の仕組みを作るためのテキストの編集と、資格の見直しを行った。

## 学術論文・著書・分担執筆

1. 中央法規介護福祉士受験対策研究会／編集 介護福祉士国家試験過去問題解2024 中央法規出版 2024年5月
2. 大西典子 大野淑子 福田純,「ヘルスプロモーションにかかわるシニアファッションショーの報告」山野研究紀要 第31号 2024年
3. Noriko Onishi, Toshiya Nagamatsu, The Role of Aesthetics in Elderly Care, Gerontology as an Interdisciplinary Science, Chapter15 215-223, Springer 2024.7.23.
4. Keiko Ishii, Yoshiko Ohno, Maiko Oikawa, Noriko Onishi, Experimental Understanding of the Flow Dynamics of Exhaled Air to Prevent Infection through Aerosol , Gerontology as an Interdisciplinary Science, Chapter18 249-262, Springer 2024.7.23.
5. 大西典子「美容福祉・美齢学の人材育成システムの新展開について」日本美容福祉学会誌 VOL.23 NOV.2024 pp 6-10 2025.1.1.
6. 駒形恵子, 大西典子, 大野淑子, 鈴木育宏, 「がんサバイバーの社会参加を支援する地域美容事業者向け教育プログラムの開発」日本美容福祉学会誌 VOL.23 NOV.2024 pp33-38 2025.1.1.
7. 学校法人山野学苑編集「美しく生きるための美容福祉—ジェロントロジー・美齢学」中央法規出版 編集委員 第1章2節,第2章1節,第4章1節・1 第5節1, 2・第6節1, 5,topics 8 2025.3.10.

## シンポジウム・講演・学会発表

8. 「美齢学・美容福祉推進のための提案」NPO全国介護美容福祉協会主催 登録理美容師の集い 2024年8月27日, 山野美容専門学校
9. 「美容福祉・美齢学の人材育成システムの新展開について」講演 日本美容福祉学会第23回学術集会 2024年11月16日 オンライン

## 社会活動

10. 社会福祉法人多摩養育園 第三者委員苦情解決訪問 (2024.7.5) (2024.11.25)

11. 第16回多摩養育園福祉まつり2024ー未来につなごう地域の輪 - 協力 (2024.11.10)
12. シニアのための「うきうきファッションショー」協力 (2024.12.1)
13. 八王子市がん予防対策推進イベント アピアランスケア相談協力 八王子市保健所 (2025.2.15)

#### 委員活動

14. 一般社団法人 日本美容福祉学会 理事、第23回学術集会実行委員長
15. 一般社団法人 がん治療学会会員
16. 日本認知症学会会員
17. 日本早期認知症学会会員

# 及川 麻衣子

所属：山野美容芸術短期大学美容総合学科・准教授

経歴等：[https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_17/](https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_17/)

## 研究成果の概要

2024年度は、本学のYamatan-Bell-Roseによるバラを活用した地域活性プロジェクトを企画・イベントを実施した。また昨年につき他大学・高齢者団体と連携し、ICTを活用した世代間交流についての共同研究を行った。ICTを活用したカルタの制作では、フレイル予防や健康寿命の延伸に寄与できるよう、各短大・大学の特色を持ち寄り健康、美容、食生活に関するカルタを高齢者の2団体とともに製作し、最終的に紙カルタを完成させることができた。制作過程では、従来のChatGPTを活用した読み札作成、Canvaを活用した絵札作成に加え、新たに音声生成AI「にじボイス」を導入し、読み札の読み上げにもAIを活用した。また、参加した学生は紙カルタ制作を通して、創造性や協調性を高めることができた。今後は、政策した紙カルタを有効活用し、世代を超えた交流を深め、社会貢献できる活動を検討している。

## 分担執筆

1. 及川麻衣子 学校法人山野学苑編集「美しく生きるための美容福祉—ジェロントロジー・美齡学」中央法規出版 topics 1,第4章第1節・第3節・第4節1・第5節3、4・第6節2～4, 2025.3.10.

## 講演・学会発表・講座

2. 八王子学園都市大学「いちよう塾」美齡講座④「エイジングヘアケア～美しい髪とヘアスタイルを保つためのヘアケア～」八王子市学園都市センター2024年5月25日
3. 東京都教育庁 令和6年度視覚障害者とともに学ぶ教養講座身だしなみの整え方～ブラインドメイクを体験してみよう～東京都障害者福祉会館2024年5月26日
4. 町田市民大学HATS「"こころ"と"からだ"の健康学」「美」は心・身体・生命をつなぐ～日常に取り入れたい美容法～町田市生涯学習センター2024年7月9日
5. 日本ケアメイク協会化粧訓練士スキルアップ講座 オンライン2024年6月22日
6. 三田薫、及川麻衣子 カルタ制作を通じた学校間・世代間・社会連携プロジェクト 日本教育情報学会 青山学院大学青山キャンパス2024年8月25日
7. 八王子市視覚障害者福祉協会「視覚障害者のヘッドマッサージ講座」八王子障害学習センタークリエイティブホール 2024年8月31日
8. 八王子学園都市大学「いちよう塾」美齡講座④「エイジングヘアケア～美しい髪とヘアスタイルを保つためのヘアケア～」八王子市学園都市センター 2024年11月9日
9. 及川麻衣子,森谷美紅,富田知子,Yamatan-Bell-Roseによる地域活性プロジェクト—はちおうじNPOフェスティバル2024の実践報告— 第23回日本美容福祉学会 2024年11月16日
10. 令和6年度第2回相模原あじさいサミット シニアファッションショー ソレイル

さがみ・橋本公民館 2024年11月24日

11. Kaoru Mita, Maiko Oikawa, Mika Shirao, The Karuta Project Aiming to Enhance Generative AI Skills of Students and Improve ICT Skills of the Elderly. The Asian Conference on Education (ACE2024) 都市センターホテル 2024年11月25日
12. 八王子市心身障害者福祉センター基礎から学ぶメイク講座(全2回) 八王子市心身障害者福祉センター 2025年3月8日、3月22日

#### 社会活動・委員活動

13. 「受刑者の出所前教育インプレッション指導」イベント審査・ヘアメイク 立川拘置所 2024年4月16日、2025年2月13日、3月12日
14. 私立大学情報教育協会 短期大学会議教育改革 ICT 運営委員
15. 全国介護理容美容福祉協会 理事
16. 日本美容福祉学会 理事
17. 日本化粧品医療学会 代議員

# 五十嵐 靖博

所属：山野美容芸術短期大学美容総合学科・教授

経歴等：[https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_16/](https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_16/)

## 研究成果の概要

前年度に引き続き心理学のメタ学問である理論心理学と、現行の心理学が抱える諸問題の解決に取り組む批判心理学の立場から、フーコー派ディスコース分析の研究方法論と批判心理学史のヒストリオグラフィーを採用して超高齢社会に生きる人の心的経験と社会や文化、政治経済などの外的諸条件の関係を探究した。20世紀末以来の新自由主義政策に加えて物価高やウクライナ紛争、能登半島地震、「タイバ・コスパ」が重んじられると同時に急速にAIが普及しつつある昨今の社会情勢と心理学の関係に留意し、「心理学的生産物」の役割や機能を検討して、その個人の主観性や行為の選択への影響と「心理学的事物」を日常生活の中で活用する可能性を考察した。

## 学術論文・分担執筆

1. 五十嵐靖博 (2025) 心理的・社会的変化と環境の外見への影響 山野学苑編「生きるほど美しく」を実現する美容福祉：美齢学，ジェロントロジーの視点を踏まえた美容ケア，Pp28-36，中央法規。
2. 学校法人山野学苑編集「美しく生きるための美容福祉—ジェロントロジー・美齢学」中央法規出版 第2章第2節 2025.3.10

## シンポジウム・講演・学会発表

3. Igarashi, Y. (2025). Decolonial Approaches Needed in Psychological Praxis in Japan: A Perspective from Critical Theoretical Psychology. The 15th Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences.
4. 五十嵐 靖博 (2024a). 志賀原発の安全性をめぐるディスコース：新聞記事を例として. 第28回批判心理学セッション（日本心理学会批判心理学研究会）。
5. 五十嵐 靖博 (2024b). 日常生活のなかのディスコース分析：理論心理学と批判心理学の立場から. 第30回批判心理学セッション（日本心理学会批判心理学研究会）。

## 社会活動・委員活動

6. Annual Review of Critical Psychology 編集委員 2006～
7. (公社) 日本心理学会 批判心理学研究会代表 2010～
8. International Society of Critical Health Psychology 運営委員 2011～2021
9. Awry: Journal of Critical Psychology (AJCP) 編集委員 2019～
10. Frontiers in Psychology 部門編集委員 2019～
11. 2020 Critical Psychology Conference in East Asia 組織委員会委員長
12. 2020 The Psychology of Global Crises Conference 実行委員

# 大野 淑子

所属：山野美容芸術短期大学・客員教授

経歴等：[https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_18/](https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_18/)

## 研究成果の概要

高齢者や障がい者の衣服のおしゃれ、機能性や素材への配慮等について社会活動や研究を行っている。今年度は障がい等による機能低下、体型変化等に配慮した衣服の開発と普及のための、ファッションのインクルーシブデザインシンポジウムの開催やweb製作に携わり、高齢になっても障がいをもっても、快適に衣服を着用しおしゃれを楽しむことによる自信や生活の質の向上を目的とした講演活動や社会活動を行った。また杉並区を拠点とした訪問美容の事例集の製作に携わり訪問での装いの支援の可能性について検討した。

## 学術論文・学会発表・著書・分担執筆

1. 佐野美恵子、大野淑子「美容福祉の実践事例集の作成とその効果の報告」日本美容福祉学会第23回学術集会発表（日本美容福祉学会誌Vol.23、pp43～45）（2024.11）
2. 駒形恵子，大西典子，大野淑子，鈴木育宏「がんサバイバーの社会参加を支援する地域美容事業者向け教育プログラムの開発」日本美容福祉学会誌Vol.23、pp33－38（2024.11）
3. Keiko Ishii, Yoshiko Ohno, Maiko Oikawa, Noriko Onishi, Experimental Understanding of the Flow Dynamics of Exhaled Air to Prevent Infection through Aerosol , Gerontology as an Interdisciplinary Science, Chapter18 249-262, Springer（2024.7.23）
4. 学校法人山野学苑編集「美しく生きるための美容福祉—ジェロントロジー・美齢学」中央法規出版 編集委員 第3章4節,第4章4節（2025.3.10）
5. 訪問健美美容すぎなみ編集・出版「美容福祉の実践事例集～訪問理美容に必要な知識と技術～」第5章事例6・12コラム・おわりに（2024.4.15）

## シンポジウム・講演・講座

6. 美齢講座「おしゃれでいきいきシニアファッション」八王子市学園都市大学いちょう塾（2024）
7. 「ファッションのインクルーシブデザインシンポジウム」講演「美容福祉と美齢学」（障害等による機能低下、体型変化等に配慮した衣服の開発と普及のための基盤整理研究班）（2024.11）
8. シニア元気塾ボランティア入門講座「美容福祉～おしゃれで生き生きシニアファッション」八王子センター元気（2024.10）
9. シニアのおしゃれ講座「パーソナルカラーを見つけて外出してみよう」朝霞市地域包括センター（2024.9）
10. 東京都立港特別支援学校「身だしなみ講座」（2025.2）

#### 社会活動・委員活動

11. 介護専門職の総合情報誌【おはよう21】特集暮らしを支える・「おしゃれをあきらめない衣服の知識」2024年5月号（中央法規出版）
12. 第2回シニアのためのファッションショー協力（八王子地域支援団体ハモニカ・ファッションショー実行委員会）（2024.12）
13. 介護専門職の総合情報誌【おはよう21】「美容ケアのコツ・TPOに合わせたファッションの提案」2025年2月号（中央法規出版）
14. 介護専門職の総合情報誌【おはよう21】「美容ケアのコツ・カラーコーディネートを楽しむファッション」2025年3月号（中央法規出版）
15. 総合的健康美学研究第11巻コラム「装いと健康美」（国際健康美学会）（2025.2）
16. 公益財団法人カシオ科学振興財団第14回研究協賛事業「障害等による機能低下、体型変化等に配慮した衣服の開発と普及のための基盤整理」研究員
17. 一般社団法人 日本美容福祉学会 理事

# 永松 俊哉

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：[https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_19/](https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_19/)

## 研究成果の概要

適度な運動の継続は心身の健康に繋がる。これまで運動を活用した健康増進に関する研究に取り組み、高齢者の健康づくりを狙いとして、日常生活の中で実施・継続可能な低強度の運動（レジスタンストレーニング・ストレッチング・ヨガ）および呼吸法の効用および不活動の弊害について検討してきた。今年度は座位行動について、特に日本人への影響について文献ワークを実施した。

## 学術論文・分担執筆

1. 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、中原雄一、鈴川一宏、永松俊哉. 男子高校生における学校運動部からの早期離脱の関連要因：2.4年間の追跡調査. 体力研究, 122: 17-27. (2024)
2. Noriko Onishi, Toshiya Nagamatsu. The role of Aesthetics in elderly care. Gerontology as an interdisciplinary science. Chapter 15. 215-223(2024)
3. 学校法人山野学苑編集「美しく生きるための美容福祉—ジェロントロジー・美齢学」中央法規出版 第3章6節 2025.3.10

## 講演

4. 美齢講座「美しい歩き方を学んで体力アップ」八王子市いちよう塾講演（2024）
5. 狛江市スポーツ協会代表者連絡会「競技パフォーマンスとメンタルヘルス」狛江市スポーツ協会講演（2024）
6. 立川市スポーツ指導者養成講座「スポーツとメンタルヘルス」立川市スポーツ協会講演（2024）

## 社会活動・委員活動

7. 日本体力医学会 評議員
8. 日本美容福祉学会 理事
9. 公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団倫理審査委員会 委員
10. 特定非営利法人 羽村市体育協会 理事
11. 公益社団法人 日本エアロビック連盟 理事
12. 公益財団法人 明治安田厚生事業団 理事
13. 公益財団法人 明治安田厚生事業団 研究助成選考委員会 副委員長
14. 羽村市スポーツ推進審議会 会長

# SAM

所属：ネクストジャパン株式会社 代表取締役  
一般社団法人 ダレデモダンス 代表理事

経歴等：<https://trf.avexnet.or.jp/profile/detail.php?id=1000230>

## 研究成果の概要

老若男女すべての世代にダンスの楽しさを伝えようと、音楽に合わせて体を動かす「ダレデモダンス」の普及をしております。私の従兄弟の岩槻南病院理事長である丸山泰幸院長に監修して頂き、安全性と運動性を兼ね備えたダンスプログラムを制作しました。ご高齢の方でも安全に継続してダンスに取り組んでもらえるよう構成されています。実際に岩槻南病院においては、ある一定期間の心臓リハビリテーションの過程を終了した、心臓に疾患を持つご高齢の患者さんにご協力いただきながら運動強度に関する調査も行っており安全面は担保されています。医学的な効果として我々が期待していることは、有酸素運動としての効果をはじめ、ロコモティブシンドロームや認知症の予防効果が挙げられます。監修をする上で注意している点は、ダレデモ踊れるダンスであること。小さな子供からダンス未経験の高齢者まで、老若男女楽しめるダンスプログラムとして安全性と運動性を兼ね備えた内容であることを重要視し活動しています。

## 講演・講座

1. 第29回日本心臓リハビリテーション学会 市民公開講座 ライトキューブ宇都宮 2024年3月3日
2. 第62回日本小児歯科学会大会 横須賀芸術劇場 2024年5月17日
3. 品川歯科医師会100周年記念講演 きゅりあん小ホール 2024年6月9日
4. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 神戸国際展示場 2024年7月13日
5. 日本応用老年学会 ジェロントロジー講演/ダレデモダンスワークショップ 慶應義塾大学日吉キャンパス 2024年11月9日

## 社会活動

6. ナスミュージックアカデミー ダレデモダンスワークショップ 福山ニューキャッスルホテル 2024年1月14日
7. 楽天シニア ジェロントロジー講演会 神奈川大学みなとみらいキャンパス 2024年1月31日
8. うらやす財団 あつまれ！うんどう公園 DANCE SPECIAL DAY バルドラール浦安アリーナ 2024年3月23日
9. 春日部法人会 ダレデモダンスワークショップ ふれあいキューブ 2024年7月28日
10. スペシャルオリピックス日本・愛知 ダレデモダンスWS 東別院会館 2024年8月3日
11. 岩槻医師会 ダレデモダンスワークショップ WATSU岩槻 2024年10月5日

12. 釧路市民健康づくり事業 釧路小学校 2024年10月11日
13. 社会福祉法人寿山会 ダレデモダンスワークショップ 今治市波方公民館 2024年10月12日
14. 新宿高島屋 ヘルスケアマルシェ ダレデモダンスワークショップ 新宿高島屋 2024年10月19日
15. ねんりんピックはばたけ鳥取2024 ダレデモダンスワークショップ 鳥取ユニバーサルスポーツセンターノバリア 2024年10月20日
16. 令和6年度シルボンヌ全国大会in埼玉 大宮ソニックシティ 2024年11月19日
17. 宝塚市市政宝塚市市制70周年「介護を考える市民フォーラムin宝塚」 ソリオホール 2024年12月17日

#### メディア出演

18. 雑誌「料理と栄養」掲載 2024年月
19. NHKラジオ「まんまる」出演 2024年4月
20. 雑誌「法研」掲載 2024年6月
21. 雑誌「新世」掲載 2024年7月
22. 雑誌「清流」掲載 2024年7月
23. タウン誌「あざみ野スタイル」掲載 2024年9月
24. 新聞「産経新聞」掲載 2024年11月
25. 雑誌「婦人公論」掲載 2024年11月
26. テレビ東京「アド街ック天国」出演 2024年12月